

日本脈管学会 50 年を振り返って

石川 浩一

第 50 回総会にあたり、本学会発足の頃を振り返ってみたい。

1959 年の頃、慶應大学生理学林 麟教授が米国に行かれ、International College of Angiology の Helpan 博士から、日本でも Angiology Science を創立するよう呼びかけられた。林教授は帰国後、翌 1960 年 4 月 12 日に東京芝の国際文化会館で、広島大学生理学西丸和義教授と相談し、同年 7 月 10 日に両教授に東京大学内科田坂定孝教授と同外科石川浩一教授が加わって日本脈管学会を創立するよう決定された。

そもそも International College of Angiology は 1950 年に創立された。なお 1955 年の国際解剖学用語によると、動脈 arteria、静脈 vena、リンパ管 vasa lymphaticum、毛細血管 vas capillare のラテン語をあわせて angiologia とされたものであるが、この angiologia にあわせて日本語の脈管学の語が創立されている。

1960 年 9 月 30 日に慶應大学医学部の講堂で、林 麟教授が座長となり、日本脈管学会の設立総会を開催し、次の役員を決定した。

会 長	西丸 和義
副会長	田坂 定孝・木本 誠二
理 事	相沢 豊三・石川 浩一・大根田玄寿 岡本 彰祐・工藤 達之・須田 勇 橋本 義雄・林 麟・松田幸次郎
監 事	小平 正・斉藤 十六
幹 事	石川 浩一・大根田玄寿・岡 繁樹
編 集	五島雄一郎・山根 至二
会 計	東 健彦
庶 務	三島 好雄

第 1 回総会では次の講演が行われた。

特別講演

1. 脈管学基礎的研究の史的展望と将来
西丸 和義
2. 脳出血の原因である脳動脈病変の成り立ち
大根田玄寿

シンポジウム

1. 脳エンボリーの成立機転について 松岡 茂
2. 血管凝固性より見た血栓性疾患の成因とその治療
松岡 松三
3. 末梢動脈閉塞と指趾乏血 石川 浩一
4. 末梢動脈閉塞性疾患の外科 羽田野 茂
5. 下肢動脈閉塞性疾患の治療 とくに血管移植について 砂田 輝武
6. 血栓形成に対する 2, 3 の問題 橋本 義雄

第 2 回から第 10 回までの総会における年月日、場所、会頭、主題は次のようであった。

- | | | | |
|-------|-------------|-----|------------------|
| 第 2 回 | 1961 年 9 月 | 名古屋 | 橋本 義雄 |
| | | | 主題：血管運動神経 |
| 第 3 回 | 1962 年 11 月 | 広島 | 和田 直 |
| | | | 主題：高血圧と浮腫 |
| 第 4 回 | 1963 年 11 月 | 東京 | 田坂 定孝 |
| | | | 主題：血管透過性 |
| 第 5 回 | 1964 年 9 月 | 仙台 | 中村 隆 |
| | | | 主題：末梢循環のレオロジー・撮影 |
| 第 6 回 | 1965 年 | 東京 | 木本 誠二 |
| | | | 主題：リンパ循環・動脈硬化 |
| 第 7 回 | 1966 年 | 東京 | 相沢 豊三 |
| | | | 主題：臓器循環・血管作動物質 |
| 第 8 回 | 1967 年 | 神戸 | 岡本 彰祐 |
| | | | 特別講演 28 題 |
| 第 9 回 | 1968 年 11 月 | 東京 | 石川 浩一 |



図 林 謙教授と西丸和義教授

主題：動脈壁の代謝・消化管の循環
 第 10 回 1969 年 11 月 福岡 勝木司馬之助
 主題：微小循環・脈無し病・血行再建

1977 年 542 2,751 27
 1978 年 578 2,810 27

日本脈管学会では、毎年の総会を会頭が主催したが、学会の継続事業のために次のように会長制度が続行された。

この頃、厚生省で取り扱った脈管学関係の課題と主催者は次のようであり、本脈管学会も重く関係した。

第 1～18 回 (1960～1977) 西丸 和義
 第 19～26 回 (1977～1985) 石川 浩一
 第 27～30 回 (1985～1989) 関 清
 第 31～33 回 (1989～1992) 稲田 潔
 第 34～36 回 (1992～1996) 稲垣 義明
 第 37～43 回 (1996～2002) 三島 好雄
 第 44 回～ (2002～) 矢崎 義雄

1973 年 結節性動脈周囲炎 砂川 優一
 1973 年 大動脈炎症候群 稲田 潔
 1973 年 ビュルガー病 石川 浩一
 1975 年 脳脊髄血管異常 大根田玄寿
 1975 年 原発性肺高血圧症 笹本 浩
 1975 年 特発性門脈圧亢進症 杉浦 光雄
 1975 年 若年性高血圧症 宮原 正
 1976 年 系統的血管疾患 塩川 優一
 1977 年 ウィリス動脈輪閉塞症 後藤 文男
 1977 年 汎発性血管内凝固症 小宮 正文

日本脈管学会会員数などの推移は次のようであった。

脈管学に関係の深い学会で、この頃創立されたものと創設者は次のようであった。

	評議員	一般会員	賛助会員
1970 年	483	1,659	19
1971 年	462	1,544	27
1972 年	467	1,681	28
1973 年	468	1,702	29
1974 年	482	1,916	29
1975 年	521	2,024	28
1976 年	561	2,410	27

1935 年 日本循環器病学会 眞下 俊一
 1960 年 日本脈管学会 西丸 和義
 1964 年 日本自律神経学会 冲中 重雄
 1968 年 日本微小循環学会 西丸 和義
 1970 年 日本血栓止血学会 安部 英
 1971 年 日本リンパ学会 西丸 和義

1971年 日本脳卒中学会 相沢 豊三
 1972年 日本心臓血管外科学会 三枝 正裕
 1973年 日本動脈硬化学会 大島 研三
 1978年 日本バイオレオロジー学会 岡 小天
 1981年 日本静脈学会 阪口 周吉

さらに、脈管学に関係の深い研究会の創立は次のようであった。

1968年 血管造影研究会
 1968年 血流測定研究会
 1968年 冠循環研究会
 1968年 日本門脈圧亢進研究会(門脈外科)
 1971年 動脈壁研究会
 1981年 血管外科合同研究会
 1982年 血管無侵襲診断法研究会
 1983年 日本脈管作働物質研究会
 1983年 循環器 PSM 研究会
 1983年 ABP 研究会
 1986年 脈管病理研究会
 1987年 Limb Salvage 研究会
 1990年 Vascular Biology 研究会

最後に、脈管学と関係の深い国際学会で、日本で総会

が催された例とその主催者は次のようであった。

1976年 第10回国際脈管学会 石川 浩一
 1977年 第3回国際動脈硬化シンポジウム
 1977年 第13回世界心臓血管学会議 大島 研三
 1979年 第9回国際循環代謝会議 木本 誠二
 1981年 第2回日独脈管学会議 後藤 文男
 1981年 第4回国際バイオロジー世界会議 関 清
 1986年 第9回世界静脈学会議 深田 栄一
 1987年 第8回国際心臓血管循環動態学会議 阪口 周吉
 1989年 第12回国際リンパ学会議 梶谷 文彦
 (東京医大)
 1989年 第1回国際脳卒中会議 相沢 豊三
 1991年 第1回大動脈疾患国際シンポジウム
 井上 正

以上のように、脈管学に関係の深い医学会、研究会、国際学会などが多数あったので、日本脈管学会は早くからこれらと時々協調しあい、また時には共同で発表会を行ったりしてきた。

以上、本学会発足の頃を振り返ってみた。